第十講・ロシアパン①（物語文）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「おい、お前の所のロシア人が、パンを売りに来たぞ。」

学校の帰りなど、①同級生たちが、わたしをこう言ってからかった。

「おれの所でないよ。家の裏だ。」

「おんなじじゃないか。」

「ちがうよ。」

すると、一人が、

「オイシイ　オイシイ　ロシアパン　カイマセンカ。」

そんなロシア人の言葉のまねをすると、大きい声で、みんなで笑った。わたしは、家の裏に引っこしてきたロシア人がうらめしくなった。

「オイシイ　オイシイ　ロシアパン　カイマセンカ。」

その日はきっと、思うように売れなかったのであろう。②学校から帰る小学生までつかまえて、本当にそう言いながら、ロシア人はパンを売っていた。

それを見ると、わたしは、自分がパンを売って歩いているような気さえした。そして、なんだかはずかしくなってくるのであった。

でも、売れなくて、商売がうまくゆかないと思うと、かわいそうな気もしてきた。

そんな日、家に帰って、

「ロシアパンは、今日は売れないよ。」

そう言うと、わたしの父や母は、

「そんなら、買ってこい。」

と、お金をくれるのだった。

〈高橋正亮「ロシアパン」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「同級生たちが、わたしをこう言ってからかった」について、次の問いに答えなさい。

㋐　どのようにからかったのですか。文中から一文でぬき出しなさい。

㋑　からかわれた「わたし」はどのような気持ちになりましたか。文中から十三字でぬき出しなさい。

(2)　――線②「学校から帰る小学生までつかまえて」について、次の問いに答えなさい。

㋐　この行動からロシア人のどのような様子がわかりますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　どうせパンは売れないだろうと、投げやりになっている。

イ　なんとかしてパンを売りたいと、あせっている。

ウ　日本人と早く仲良くなりたいと、気をつかっている。

エ　パンを売ることを心から楽しみ、はりきっている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㋑　ロシア人のこの行動を見て、「わたし」はどのように感じましたか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

まるで自分のことのように

□□□□□なった。しかし、パンが売れていないのだと思うと、ロシア人が

□□□□□になった。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

〈「わたし」の家の裏（うら）に引っこしてきたロシア人は、「ロシアパン」と書いた箱を持ってパンを売り歩いていた。「わたし」は、そのことで同級生にからかわれていた。〉

時折食べるせいか、わたしにはパンほどおいしいものはないように思えた。わたしの家でも、みんなロシアパンが好きになった。

ハイカラなものは、何でもきらいな祖母まで、

「今日は、パン屋の売れ行きはどうだ。」

と、わたしにきいて笑った。パンを買ってこいということであった。

ロシアパンは、しだいに売れていった。ロシア人の家にまで、わざわざ買いに来る人さえ出てきた。

①わたしをからかった同級生たちまで、いつかパンが売り切れると、次には、わたしにたのんで買ってもらうくらいであった。

そして、わたしたちも、ロシア人たちと仲良しになった。

きりのむらさき色の花は、静かにさき、美しく見える。そのきり畑の前の空き地で、わたしの妹とロシア人の女の子はよく遊んでいた。学校へ行きたいと言っていたという女の子は、妹と歌を歌ったり、ゆうぎをしたりしていた。

わたしはまた、②男の子と仲良しになった。わたしといくつもちがわないようなまだ子どもなのに、もう箱をかたにかけて、父といっしょにパンを売って歩くのを見ると、なにか大人のように見えるのであった。けれども、商売を終えて家に帰ってくると、やはり子どもであった。わたしといっしょに、めんこ遊びなんかするのだ。

すっかり仲良しになったわたしたちは、わたしは店から果物を、男の子は自分の家からパンをくすねてきて、二人はこっそり取りかえっこをして、笑いながら食べ合った。男の子は、わたしの知らない外国の話を教えてくれ、わたしは、かれが町のどんな

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

大人よりもえらいような気がした。

〈高橋正亮「ロシアパン」より〉

(1)「わたし」がロシアパンを大好きであることがわかる表現を文中から一文でぬき出し、初めの五字を答えなさい。

(2) ――線①「わたしをからかった同級生たちまで、いつかパンが売り切れると、次には、わたしにたのんで買ってもらうくらいであった」とありますが、同級生たちはなぜこのような行動をとったと考えられますか。文中の言葉を使って答えなさい。

(3) ――線②「男の子と仲良しになった」とありますが、「わたし」は男の子をどのように思っていましたか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

パンを売って歩く姿は□見えたが、いっしょに遊んでいると、やはり□だと思った。

(4)「わたし」が男の子を尊敬する気持ちが最もよくわかる部分を文中から二十三字でぬき出し、初めと終わりの四字を答えなさい。

初め

終わり

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講・確認テスト

次の説明に当てはまるものを選びなさい。

1　今の言葉で書かれた詩のことをなんといいますか。

ア　文語詩　イ　口語詩

ウ　自由詩　エ　定型詩

2　音数に決まりのない詩をなんといいますか。

ア　文語詩　イ　口語詩

ウ　自由詩　エ　定型詩

3　心情が中心の詩をなんといいますか。

ア　口語詩　イ　自由詩

ウ　叙景詩　エ　叙情詩

4　あるものを他のものにたとえて表す技法はなんといいますか。

ア　比ゆ　イ　くり返し法

ウ　体言止め　エ　対句法

5　似た調子の言葉を対照的に並べる技法をなんといいますか。

ア　比ゆ　イ　倒置法

ウ　対句法　エ　省略法

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　ロシアパン①（物語文）

一題目

(1) ㋐おい、お前の所のロシア人が、パンを売りに来たぞ。（「」をつけても可）
㋑ロシア人がうらめしくなった

(2) ㋐イ
㋑はずかしく・かわいそう

二題目

(1) 時折食べる

(2) (例)ロシアパンを好きになったから。(ロシアパンを食べたかったから。)

(3) 大人のように・子ども

(4) 初め……かれが町
終わり…気がした

〈確認テストの解答〉

1 イ　2 ウ　3 エ　4 ア　5 ウ